



中等职业教育国家规划教材  
全国中等职业教育教材审定委员会审定

---

---

# 中 药 与 方 剂

(中药专业)

主 编 刘德军 (江苏省连云港中药学校)

副主编 陶忠增 (山东省中医药学校)

编 委 崔连有 (河南省焦作市中医药学校)  
兰水中 (广东省新兴中药学校)

责任主审 钟 森

审 稿 祁公任 陈 涛

中国中医药出版社

· 北 京 ·

# 中等职业教育国家规划教材

## 出版说明

为了贯彻《中共中央国务院关于深化教育改革全面推进素质教育的决定》精神，落实《面向 21 世纪教育振兴行动计划》中提出的职业教育课程改革和教材建设规划，根据教育部关于《中等职业教育国家规划教材申报、立项及管理意见》（教职成〔2001〕1 号）的精神，我们组织力量对实现中等职业教育培养目标和保证基本教学规格起保障作用的德育课程、文化基础课程、专业技术基础课程和 80 个重点建设专业主干课程的教材进行了规划和编写，从 2001 年秋季开学起，国家规划教材将陆续提供给各类中等职业学校选用。

国家规划教材是根据教育部最新颁布的德育课程、文化基础课程、专业技术基础课程和 80 个重点建设专业主干课程的教学大纲（课程教学基本要求）编写，并经全国中等职业教育教材审定委员会审定。新教材全面贯彻素质教育思想，从社会发展对高素质劳动者和中初级专门人才需要的实际出发，注重对学生的创新精神和实践能力的培养。新教材在理论体系、组织结构和阐述方法等方面均作了一些新的尝试。新教材实行一纲多本，努力为教材选用提供比较和选择，满足不同学制、不同专业和不同办学条件的教学需要。

希望各地、各部门积极推广和选用国家规划教材，并在使用过程中，注意总结经验，及时提出修改和建议，使之不断完善和提高。

教育部职业教育与成人教育司  
二〇〇二年十月

# 中等中医药教材建设指导委员会

主任委员 李振吉

副主任委员 贺兴东 吴恒亚 胡国臣

委员 (以姓氏笔画排序)

于明江 马金生 王书林 王立坤 王学明  
王宝富 王明来 王辅民 公茂有 方家选  
吉传旺 曲晓波 朱铁宝 刘化侠 江世平  
江震声 杜兆雄 杨万英 杨静化 苏保松  
李立 李广才 李玉柯 李光耀 李聪民  
余甘霖 张为佳 张邦帅 张志峰 陈中熊  
陈代启 邵湘宁 林康球 尚志云 周晓明  
郑兴泽 郑建华 宝音 赵文鼎 赵伟光  
秦国东 涂金香 郭鲁义 黄吉庆 阎健民  
盖长清 傅淑清 鲁昌贵 曾庆琦 谢华民  
濮传文

# 中药类专业编审委员会

主任委员 周晓明

副主任委员 陈骏骐

委员 (以姓氏笔画排序)

王满恩 冯秀锟 刘茵华 刘德军 孙师家  
杨桂明 吴虹 宋桂荣 宋德勋 张虹  
张钦德 陈骏骐 彭建福 路振山 樊天林

## 编写说明

本教材是全国中等职业学校中药专业国家规划教材，是根据国家中医药管理局科教司 2002 年 4 月在北京召开的全国中等职业学校中药专业主干课程教材主编工作会议精神，由有关中等中医药学校共同编写完成，可作为各类中等职业学校或相同层次各类中医药人员培养、培训教材，并可供广大中初级中药专业人员自学提高之用。

本教材以教育部审定通过的《中等职业学校中药专业中药与方剂教学大纲》为依据，以培养综合职业能力为本位，以岗位需要为前提，突出技能培养。在内容上根据中药与方剂间的内在联系，打破原中药学、方剂学两学科之间的界限，避免部分内容的重复，注意相互间内容的衔接。全书分上、下两篇，上篇介绍了中药与方剂的起源和发展、中药的性能、方剂与治法、方剂的组成与变化、中药与方剂的用法等内容；下篇介绍了 300 种常用中药及 60 首代表方剂，其中需重点掌握中药 100 种，重点掌握方剂 20 首。在编写体例上，其中下篇中药部分，根据教学要求，只对部分中药在“应用”上的主要功效讲述了其常用配伍，在此特加以说明。

本教材上篇及下篇第一、八章由刘德军编写；下篇第二、三、四章由陶忠增编写；下篇第五、六、七、九章由兰水中编写；下篇第十、十一、十二、十三、十四、十五、十六章由崔连有编写。在编写过程中，各参编人员所在学校给予了大力支持和帮助，同时本教材参考引用了大量文献资料，在此一并表示感谢！

由于编者水平有限，加之编写时间仓促，书中缺点和错误在所难免，衷心希望各校在使用过程中提出宝贵意见，以便再版时修订。

编 者  
2002 年 9 月

# 目 录

## 上篇 中药与方剂基础知识

<b>第一章 中药与方剂的起源和发展</b>	..... (1)
第一节 中药与方剂的概念	..... (1)
第二节 中药与方剂的发展	..... (1)
<b>第二章 中药的性能</b>	..... (5)
第一节 性味	..... (5)
第二节 升降浮沉	..... (7)
第三节 归经	..... (7)
第四节 毒性	..... (8)
<b>第三章 方剂与治法</b>	..... (10)
第一节 方剂与治法的关系	..... (10)
第二节 常用治法	..... (10)
<b>第四章 方剂的组成与变化</b>	..... (12)
第一节 组成原则	..... (12)
第二节 组成变化	..... (13)
<b>第五章 中药与方剂的用法</b>	..... (14)
第一节 配伍与用药禁忌	..... (14)
第二节 剂量	..... (15)
第三节 剂型与用法	..... (16)

## 下篇 常用中药与方剂

<b>第一章 解表药与解表剂</b>	..... (19)
第一节 解表药	..... (19)
一、辛温解表药	..... (19)
麻黄	..... (19)
桂枝	..... (20)
荆芥	..... (20)
防风	..... (21)
白芷	..... (21)

羌活	..... (21)
紫苏	..... (22)
生姜	..... (22)
香薷	..... (22)
藁本	..... (22)
苍耳子	..... (23)
辛夷	..... (23)
<b>二、辛凉解表药</b>	..... (23)
薄荷	..... (23)
蝉蜕	..... (24)
牛蒡子	..... (24)
菊花	..... (24)
桑叶	..... (25)
蔓荆子	..... (25)
柴胡	..... (25)
葛根	..... (25)
升麻	..... (26)
<b>第二节 解表剂</b>	..... (26)
麻黄汤	..... (27)
桂枝汤	..... (27)
小青龙汤	..... (28)
银翘散	..... (28)
桑菊饮	..... (29)
麻黄杏仁甘草石膏汤	..... (29)
败毒散	..... (29)
<b>第二章 清热药与清热剂(附: 和解剂)</b>	..... (31)
第一节 清热药	..... (31)
一、清热泻火药	..... (31)
石膏	..... (31)
知母	..... (32)
栀子	..... (32)
天花粉	..... (32)
夏枯草	..... (33)

芦根	.....	(33)	白薇	.....	(45)
淡竹叶	.....	(33)	胡黄连	.....	(45)
<b>二、清热燥湿药</b>	.....	(34)	银柴胡	.....	(46)
黄芩	.....	(34)	<b>第二节 清热剂</b>	.....	(46)
黄连	.....	(34)	白虎汤	.....	(47)
黄柏	.....	(34)	清营汤	.....	(47)
龙胆草	.....	(35)	黄连解毒汤	.....	(48)
苦参	.....	(36)	仙方活命饮	.....	(48)
<b>三、清热凉血药</b>	.....	(36)	导赤散	.....	(48)
生地黄	.....	(36)	龙胆泻肝汤	.....	(49)
玄参	.....	(36)	苇茎汤	.....	(49)
牡丹皮	.....	(36)	白头翁汤	.....	(50)
赤芍	.....	(37)	青蒿鳖甲汤	.....	(50)
水牛角	.....	(37)	附：和解剂	.....	(50)
紫草	.....	(37)	小柴胡汤	.....	(51)
<b>四、清热解毒药</b>	.....	(38)	逍遥散	.....	(52)
金银花	.....	(38)	半夏泻心汤	.....	(52)
连翘	.....	(38)	葛根黄芩黄连汤	.....	(52)
白头翁	.....	(39)	<b>第三章 泻下药与泻下剂</b>	.....	(54)
板蓝根	.....	(39)	<b>第一节 泻下药</b>	.....	(54)
大青叶	.....	(39)	<b>一、攻下药</b>	.....	(54)
牛黄	.....	(39)	大黄	.....	(54)
鱼腥草	.....	(40)	芒硝	.....	(55)
射干	.....	(40)	芦荟	.....	(55)
蒲公英	.....	(40)	番泻叶	.....	(55)
败酱草	.....	(41)	<b>二、润下药</b>	.....	(56)
青黛	.....	(41)	火麻仁	.....	(56)
穿心莲	.....	(41)	郁李仁	.....	(56)
蚤休	.....	(42)	<b>三、峻下逐水药</b>	.....	(56)
半边莲	.....	(42)	甘遂	.....	(56)
土茯苓	.....	(42)	巴豆	.....	(57)
山豆根	.....	(42)	京大戟	.....	(57)
马齿苋	.....	(43)	牵牛子	.....	(57)
红藤	.....	(43)	<b>第二节 泻下剂</b>	.....	(58)
白花蛇舌草	.....	(43)	大承气汤	.....	(58)
紫花地丁	.....	(44)	大黄附子汤	.....	(59)
垂盆草	.....	(44)	麻子仁丸	.....	(60)
马勃	.....	(44)	十枣汤	.....	(60)
<b>五、清虚热药</b>	.....	(44)	增液承气汤	.....	(60)
青蒿	.....	(44)	<b>第四章 祛湿药与祛湿剂</b>	.....	(62)
地骨皮	.....	(45)	<b>第一节 祛湿药</b>	.....	(62)

<b>一、祛风湿药</b>	.....	(62)	<b>真武汤</b>	.....	(75)
独活	.....	(62)	<b>实脾散</b>	.....	(76)
威灵仙	.....	(63)	<b>羌活胜湿汤</b>	.....	(76)
防己	.....	(63)	<b>独活寄生汤</b>	.....	(77)
秦艽	.....	(63)	<b>第五章 温里药与温里剂</b>	.....	(78)
桑寄生	.....	(64)	<b>第一节 温里药</b>	.....	(78)
木瓜	.....	(64)	附子	.....	(78)
五加皮	.....	(64)	干姜	.....	(78)
白花蛇	.....	(65)	肉桂	.....	(79)
豨莶草	.....	(65)	吴茱萸	.....	(79)
络石藤	.....	(65)	细辛	.....	(80)
徐长卿	.....	(65)	花椒	.....	(80)
桑枝	.....	(66)	丁香	.....	(80)
<b>二、芳香化湿药</b>	.....	(66)	高良姜	.....	(80)
苍术	.....	(66)	小茴香	.....	(81)
厚朴	.....	(66)	<b>第二节 温里剂</b>	.....	(81)
广藿香	.....	(67)	理中丸	.....	(81)
砂仁	.....	(67)	四逆汤	.....	(82)
豆蔻	.....	(67)	当归四逆汤	.....	(82)
佩兰	.....	(68)	阳和汤	.....	(83)
<b>三、利水渗湿药</b>	.....	(68)	<b>第六章 理气药与理气剂</b>	.....	(84)
茯苓	.....	(68)	<b>第一节 理气药</b>	.....	(84)
金钱草	.....	(68)	陈皮	.....	(84)
茵陈	.....	(69)	枳实	.....	(84)
泽泻	.....	(69)	木香	.....	(85)
薏苡仁	.....	(69)	香附	.....	(85)
车前子	.....	(70)	沉香	.....	(85)
滑石	.....	(70)	川楝子	.....	(86)
川木通	.....	(70)	薤白	.....	(86)
猪苓	.....	(70)	青皮	.....	(86)
通草	.....	(71)	佛手	.....	(86)
萆薢	.....	(71)	乌药	.....	(87)
石韦	.....	(71)	荔枝核	.....	(87)
地肤子	.....	(72)	柿蒂	.....	(87)
<b>第二节 祛湿剂</b>	.....	(72)	<b>第二节 理气剂</b>	.....	(87)
平胃散	.....	(73)	越鞠丸	.....	(88)
藿香正气散	.....	(73)	栝蒌薤白白酒汤	.....	(88)
茵陈蒿汤	.....	(74)	苏子降气汤	.....	(88)
三仁汤	.....	(74)	旋覆代赭汤	.....	(89)
八正散	.....	(74)	<b>第七章 理血药与理血剂</b>	.....	(90)
五苓散	.....	(75)	<b>第一节 理血药</b>	.....	(90)

一、活血祛瘀药	.....	(90)
川芎	.....	(90)
延胡索	.....	(90)
郁金	.....	(91)
莪术	.....	(91)
丹参	.....	(91)
益母草	.....	(92)
红花	.....	(92)
牛膝	.....	(92)
虎杖	.....	(93)
桃仁	.....	(93)
水蛭	.....	(93)
乳香	.....	(94)
没药	.....	(94)
姜黄	.....	(94)
三棱	.....	(94)
鸡血藤	.....	(95)
五灵脂	.....	(95)
土鳖虫	.....	(95)
王不留行	.....	(95)
二、止血药	.....	(96)
小蓟	.....	(96)
地榆	.....	(96)
白及	.....	(96)
三七	.....	(97)
大蓟	.....	(97)
白茅根	.....	(97)
茜草	.....	(98)
蒲黄	.....	(98)
艾叶	.....	(98)
槐花	.....	(98)
侧柏叶	.....	(99)
仙鹤草	.....	(99)
棕榈	.....	(99)
第二节 理血剂	.....	(99)
血府逐瘀汤	.....	(100)
桃核承气汤	.....	(100)
补阳还五汤	.....	(101)
温经汤	.....	(101)
十灰散	.....	(101)
小蓟饮子	.....	(102)

第八章 补益药与补益剂	.....	(103)
第一节 补益药	.....	(103)
一、补气药	.....	(103)
人参	.....	(103)
党参	.....	(104)
黄芪	.....	(104)
白朮	.....	(105)
甘草	.....	(105)
西洋参	.....	(106)
山药	.....	(106)
大枣	.....	(106)
太子参	.....	(107)
灵芝	.....	(107)
蜂蜜	.....	(107)
二、补血药	.....	(108)
当归	.....	(108)
熟地黃	.....	(108)
阿胶	.....	(108)
白芍	.....	(109)
何首烏	.....	(109)
龍眼肉	.....	(109)
三、补阴药	.....	(110)
北沙参	.....	(110)
麦冬	.....	(110)
枸杞子	.....	(110)
鳖甲	.....	(111)
龟甲	.....	(111)
石斛	.....	(111)
黃精	.....	(112)
天冬	.....	(112)
玉竹	.....	(112)
百合	.....	(112)
桑椹	.....	(113)
墨旱莲	.....	(113)
女貞子	.....	(113)
四、补阳药	.....	(113)
鹿茸	.....	(113)
淫羊藿	.....	(114)
杜仲	.....	(114)
肉苁蓉	.....	(115)
续断	.....	(115)

补骨脂	(115)	苦杏仁	(129)																																																																																																														
益智仁	(115)	百部	(129)																																																																																																														
菟丝子	(116)	紫苏子	(129)																																																																																																														
蛤蚧	(116)	紫莞	(129)																																																																																																														
巴戟天	(116)	葶苈子	(130)																																																																																																														
骨碎补	(116)	桑白皮	(130)																																																																																																														
冬虫夏草	(117)	款冬花	(130)																																																																																																														
核桃仁	(117)	枇杷叶	(130)																																																																																																														
紫河车	(117)	马兜铃	(131)																																																																																																														
沙苑子	(118)	白果	(131)																																																																																																														
仙茅	(118)	<b>第二节 治燥、祛痰剂</b>	(131)																																																																																																														
狗脊	(118)	<b>第一节 补益剂</b>	(118)	一、治燥剂	(132)	补中益气汤	(119)	杏苏散	(132)	四君子汤	(120)	沙参麦冬汤	(132)	四物汤	(120)	麦门冬汤	(132)	归脾汤	(120)	百合固金汤	(133)	炙甘草汤	(121)	<b>二、祛痰剂</b>	(133)	八珍汤	(121)	二陈汤	(133)	六味地黄丸	(122)	清金化痰汤	(134)	肾气丸	(122)	贝母瓜蒌散	(134)	<b>第九章 化痰止咳平喘药与治燥、祛痰</b>	<b>剂</b>	止嗽散	(134)	<b>第一节 化痰止咳平喘药</b>	(124)	半夏白术天麻汤	(135)	一、化痰药	(124)	<b>第十章 消食药与消食剂</b>	(136)	半夏	(124)	<b>第一节 消食药</b>	(136)	天南星	(124)	山楂	(136)	白芥子	(125)	神曲	(136)	瓜蒌	(125)	鸡内金	(137)	桔梗	(125)	莱菔子	(137)	旋覆花	(126)	麦芽	(137)	川贝母	(126)	谷芽	(138)	竹茹	(126)	<b>第二节 消食剂</b>	(138)	白附子	(127)	保和丸	(138)	白前	(127)	<b>第十一章 驱虫药与驱虫剂</b>	(140)	前胡	(127)	<b>第一节 驱虫药</b>	(140)	竹沥	(127)	槟榔	(140)	昆布	(128)	苦楝皮	(141)	天竺黄	(128)	使君子	(141)	蛤壳	(128)	贯众	(141)	<b>二、止咳平喘药</b>	(129)	雷丸	(141)
<b>第一节 补益剂</b>	(118)	一、治燥剂	(132)																																																																																																														
补中益气汤	(119)	杏苏散	(132)																																																																																																														
四君子汤	(120)	沙参麦冬汤	(132)																																																																																																														
四物汤	(120)	麦门冬汤	(132)																																																																																																														
归脾汤	(120)	百合固金汤	(133)																																																																																																														
炙甘草汤	(121)	<b>二、祛痰剂</b>	(133)																																																																																																														
八珍汤	(121)	二陈汤	(133)																																																																																																														
六味地黄丸	(122)	清金化痰汤	(134)																																																																																																														
肾气丸	(122)	贝母瓜蒌散	(134)																																																																																																														
<b>第九章 化痰止咳平喘药与治燥、祛痰</b>	<b>剂</b>	止嗽散	(134)																																																																																																														
<b>第一节 化痰止咳平喘药</b>	(124)	半夏白术天麻汤	(135)																																																																																																														
一、化痰药	(124)	<b>第十章 消食药与消食剂</b>	(136)																																																																																																														
半夏	(124)	<b>第一节 消食药</b>	(136)																																																																																																														
天南星	(124)	山楂	(136)																																																																																																														
白芥子	(125)	神曲	(136)																																																																																																														
瓜蒌	(125)	鸡内金	(137)																																																																																																														
桔梗	(125)	莱菔子	(137)																																																																																																														
旋覆花	(126)	麦芽	(137)																																																																																																														
川贝母	(126)	谷芽	(138)																																																																																																														
竹茹	(126)	<b>第二节 消食剂</b>	(138)																																																																																																														
白附子	(127)	保和丸	(138)																																																																																																														
白前	(127)	<b>第十一章 驱虫药与驱虫剂</b>	(140)																																																																																																														
前胡	(127)	<b>第一节 驱虫药</b>	(140)																																																																																																														
竹沥	(127)	槟榔	(140)																																																																																																														
昆布	(128)	苦楝皮	(141)																																																																																																														
天竺黄	(128)	使君子	(141)																																																																																																														
蛤壳	(128)	贯众	(141)																																																																																																														
<b>二、止咳平喘药</b>	(129)	雷丸	(141)																																																																																																														

<b>第十二章 安神药与安神剂</b>	.....	(144)
<b>第一节 安神药</b>	.....	(144)
<b>一、重镇安神药</b>	.....	(144)
朱砂	.....	(144)
龙骨	.....	(144)
磁石	.....	(145)
琥珀	.....	(145)
<b>二、养心安神药</b>	.....	(145)
酸枣仁	.....	(145)
柏子仁	.....	(146)
远志	.....	(146)
合欢皮	.....	(146)
<b>第二节 安神剂</b>	.....	(147)
朱砂安神丸	.....	(147)
酸枣仁汤	.....	(147)
<b>第十三章 开窍药与开窍剂</b>	.....	(149)
<b>第一节 开窍药</b>	.....	(149)
麝香	.....	(149)
冰片	.....	(149)
苏合香	.....	(150)
石菖蒲	.....	(150)
<b>第二节 开窍剂</b>	.....	(150)
安宫牛黄丸	.....	(151)
苏合香丸	.....	(151)
<b>第十四章 平肝熄风药与治风剂</b>	.....	(153)
<b>第一节 平肝熄风药</b>	.....	(153)
<b>一、平肝潜阳药</b>	.....	(153)
石决明	.....	(153)
珍珠	.....	(154)
珍珠母	.....	(154)
牡蛎	.....	(154)
代赭石	.....	(155)
蒺藜	.....	(155)
决明子	.....	(155)
<b>二、熄风止痉药</b>	.....	(156)
羚羊角	.....	(156)
钩藤	.....	(156)
天麻	.....	(156)
全蝎	.....	(157)
蜈蚣	.....	(157)
<b>地龙</b>	.....	(157)
<b>僵蚕</b>	.....	(158)
<b>第二节 治风剂</b>	.....	(158)
川芎茶调散	.....	(159)
牵正散	.....	(159)
镇肝熄风汤	.....	(159)
天麻钩藤饮	.....	(160)
大定风珠	.....	(160)
<b>第十五章 固涩药与固涩剂</b>	.....	(162)
<b>第一节 固涩药</b>	.....	(162)
五味子	.....	(162)
乌梅	.....	(163)
五倍子	.....	(163)
诃子	.....	(163)
罂粟壳	.....	(164)
椿皮	.....	(164)
赤石脂	.....	(164)
肉豆蔻	.....	(165)
金樱子	.....	(165)
桑螵蛸	.....	(165)
覆盆子	.....	(165)
莲子	.....	(166)
芡实	.....	(166)
山茱萸	.....	(166)
乌贼骨	.....	(167)
麻黄根	.....	(167)
<b>第二节 固涩剂</b>	.....	(167)
四神丸	.....	(168)
金锁固精丸	.....	(168)
完带汤	.....	(168)
<b>第十六章 其他类中药</b>	.....	(170)
硫黄	.....	(170)
雄黄	.....	(170)
轻粉	.....	(171)
升药	.....	(171)
铅丹	.....	(171)
炉甘石	.....	(171)
硼砂	.....	(172)
白矾	.....	(172)
斑蝥	.....	(172)
蟾酥	.....	(173)

马钱子 .....	(173)	大蒜 .....	(174)
砒石 .....	(173)	索引 .....	(175)
常山 .....	(173)	教学大纲 .....	(180)
蛇床子 .....	(174)		

## 上篇 中药与方剂基础知识

### 第一章 中药与方剂的起源和发展

#### 第一节 中药与方剂的概念

中药是指在中医药理论指导下认识和使用的药物。在漫长的历史时期以及与疾病作斗争的实践中，我国人民以其聪明和智慧，掌握了许多防病治病的手段，其中用以治病的主要方法则是药物。在古代文献中，凡能治病疗疾的统称为“药”，或谓之“毒药”。中药是近代以来，西方化学药品及其理论传入我国后，由于中西药之间有明显的差异，人们便逐渐把中国传统药物统称为“中药”。绝大多数中药产于我国，当然亦有不少外来之品（如番泻叶、安息香等），因此，不应将其理解为单纯的地域概念。中药的来源，主要是天然的植物、动物和矿物，但历来也使用部分加工品（如神曲、阿胶、血余炭等）和化学制品（如轻粉、铅丹等）。因中药中以植物药占主要地位，使用也最为普遍，所以历代相沿把药学叫做“本草”。

中药的应用，最初是从单味药开始的，经过长期的经验积累，人们认识到将几味药配合治病比单味药疗效好，于是便逐渐形成了方剂。方剂是在辨证立法的基础上，按照一定的组方原则，选择适当的药物，拟定相应的剂量，并制成一定的剂型，用于防治疾病的一组药物。方剂中除个别单味药方外，绝大部分由两味或两味以上的药物组成。药物通过配伍，既可以起到相互促进、加强疗效、照顾全面、切合复杂病情的作用，又可彼此制约，消除不良反应，即所谓“药有个性之特长，方有合群之妙用”。

#### 第二节 中药与方剂的发展

##### 一、中药的发展

在原始社会，我们的祖先为了生存，不断地进行采食和渔猎活动。在寻找食物的过程中，逐步了解到某些植物和动物对人体产生的影响。最初由于缺乏辨别能力，不可避免地会

引起某种药效反应或中毒现象，造成痛苦甚至死亡，从而使人们懂得在寻觅食物时有所选择和避忌。通过长期实践经验的积累，人们逐渐熟悉了这些自然产物的性能，并开始有意识地用来解除某些病证，经过反复试验和观察，初步形成了简单的药物知识。经过反复的实践和认识，不断总结和交流，逐渐形成了早期的药物疗法。

早期的药物知识出现以后，经历了由零星、分散到逐渐集中和系统的积累过程。进入奴隶社会后，随着文字的出现和使用，药物知识也由最初口耳相传发展到文字记载，其传播速度得以大大加快。西周时《周礼》有关于“医师掌医之政令，聚毒药以供医事”的记载。《诗经》中有不少为诗人借以比喻吟咏的药物。《山海经》载有100余种植物和动物药，其中不少沿用至今。70年代初出土的帛书《五十二病方》，涉及药物达240余种。

成书于东汉的《神农本草经》，是我国现存最早的一部药学专著。该书共三卷，分为上、中、下三品，载药365种，是汉以前药学知识和经验的总结。其所载各药主治功效，如麻黄平喘、常山抗疟、黄连治痢、茵陈退黄疸、苦棟驱虫等，大多朴实有效，历用不衰。书中还简要地记述了药物的性味、有毒无毒、配伍法度、服药方法及丸、散、膏、酒等多种剂型，为药学理论的发展奠定了初步基础。

南北朝时期，由于相关科学发展的影响，本草的内容更加丰富，学术水平显著提高。如南朝梁代的陶弘景搜集和整理了魏晋以来使用药物的经验，著成《本草经集注》七卷。该书载药730种，不仅对《神农本草经》原文逐一注释、发挥，而且补充了许多医药发展史料的内容，同时对药物产地、采制加工、真伪鉴别等作了较详细的论述，并首先指出药物的产地、采制加工与药物的疗效有密切关系。此外，又创用按药物自然属性（玉石、草木、虫兽、果、菜等）分类的方法和按药物用途分类的方法，它是我国药学史上一部承上启下的划时代专著。南朝刘宋时雷敩著《炮炙论》，该书介绍了近300种药物的炮制方法，叙述各种药物通过适当的炮炙，可以提高疗效，减轻毒性或烈性等作用。该书是我国第一部炮制专著。

隋唐时期，由于政权统一，经济发达，文化、交通及海外交往的进一步发展，医药学又有了明显的进步。在唐显庆四年（公元659年）颁布了由苏敬等主持编写的《新修本草》（又称《唐本草》）。该书收载国产和外来药物844种，增加了药物图谱，并附以文字说明，这种图文对照的方法，开创了世界药学著作的先例，不仅反映了唐代药学的巨大成就，而且对后世药学的发展也有深远影响。《新修本草》是世界上最早的一部药典，比欧洲纽伦堡药典早883年，对世界医学的发展作出了重要贡献。

宋代中药的发展，以唐慎微著《经史证类备急本草》（简称《证类本草》）为代表。该书共载药1700余种，药后附列单方3000余首。尤其可贵的是本书转引了大批北宋以前的方药资料，而这些原书其后大多已佚失，全凭该书的摘录而得以流传后世，故具有极高的文献价值。

明代杰出的医药学家李时珍，以毕生精力，广搜博采，实地考察，亲自实践，采取多学科综合研究的方法，历时近30年，三易其稿，完成了《本草纲目》这一科学巨著。全书52卷，载药1892种，附方11000多首，附图1109幅。全书按药物的自然属性和生态条件分为16部，60类。该书集我国16世纪以前药学成就之大成，在文献整理、品种考证、药性理论、功效应用等方面，均取得了巨大成功。它在17世纪末即传到国外，有拉丁文、日文、

英文、德文、俄文、法文等译本，对世界药物学、生物学和自然科学的发展都有很大影响。

清代著名的本草学家赵学敏搜集了大量有效的民间和外来药，辑成《本草纲目拾遗》，全书共载药 921 种，其中《本草纲目》未提及者达 716 种之多。同时对《本草纲目》作了重要的补充和订正，有较大的实用和研究价值。

辛亥革命以后，包括医药在内的西方科学文化在我国更加广泛传播，因而出现了片面否定传统文化的思潮，中医药受到了严重冲击。但在一批志士仁人的努力下，中药以其深厚的群众基础和顽强的生命力，仍取得了一些进展。如 1935 年出版由陈存仁主编的《中国药学大辞典》，其收录条目 4300 条，是现代第一部最重要的大型中药辞书。

新中国成立以来，由于党和政府十分重视中医药事业，制定了一系列有利于中医药发展的方针、政策和措施，使中医药事业获得了新生，并得到前所未有的迅速发展。90 年代全国中药资源普查资料表明，我国目前的中药资源种类达 12807 种，其中有药用植物 11146 种，药用动物 1581 种，药用矿物 80 种。同时，新的中药著作大量涌现、门类齐全，将中药各门分支学科从多角度全方位地提高到崭新的水平。《中华人民共和国药典》（简称《中国药典》）作为我国药品标准的法典，在一定程度上反映了我国药品的科技水平。迄今，药典已颁布了 1953 年版、1963 年版、1977 年版、1985 年版、1990 年版、1995 年版和 2000 年版。现行药典 2000 年版仍分一、二两部，第一部收载中药材、植物油脂等 534 种。20 世纪 70 年代，由江苏新医学院编辑的《中药大辞典》，载药达 5767 味。20 世纪 90 年代，由国家中医药管理局主持、南京中医药大学总编审、全国 60 多个单位协作编写的《中华本草》，共收载药物 8980 味，插图 8534 幅，引用古今文献 1 万余种，它是一部系统总结本草学成果，又全面反应当代中药学科发展水平的综合性中药学巨著。由于中药技术的发展，药材产量和质量亦都有了较大提高。为了解决药源短缺和依靠进口的问题，对有些天然药材进行了专门研究，在野生植物变家种，珍稀濒危动植物品种的人工种植、养殖和人工替代品研究，进口药材和国内异地引种等方面均取得了可喜的成绩。

进入 21 世纪后，世界各国愈来愈关注中医药在防病治病、养生保健中独具的特色和优势，面对国际国内日益增长的中医药需求，中药研究一定会更迅速地发展，中药市场一定会更加繁荣和规范，中药一定会实现现代化，并真正走向世界。

## 二、方剂的发展

方剂的历史悠久，在现存医籍中，最早记载方剂的医书是《五十二病方》，它是 1973 年在长沙市马王堆三号汉墓中发现的，载方约 300 个，但没有方名，其内容比较粗糙，从字义推断早于《黄帝内经》。成书于春秋战国时期的《黄帝内经》，是最早的中医理论经典著作，虽载方只有 13 首，但在剂型上已有汤、丸、散、膏、丹、酒之分，并总结出有关辨证、治则、治法、组方原则、组方体例等理论，为方剂学的形成和发展初步奠定了理论基础。

东汉张仲景“勤求古训，博采众方”，著《伤寒杂病论》，创造性地融理、法、方、药于一体。全书共收载方剂 314 首，其中绝大多数方剂配伍严谨，用药精当，疗效卓著。该书被后世誉为“方书之祖”，对方剂学的形成和发展具有深远的影响。

晋唐时期，医学有了很大发展，又出现了许多方书。晋代葛洪的《肘后备急方》，收载了许多验、便、廉的有效方剂，为民间所乐用。唐代孙思邈的《备急千金要方》、《千金翼

方》和王焘的《外台秘要》，汇集历代名方和一些海外传来的方剂，致使汉唐的许多名家医方得以传世，是目前研究唐以前方剂的重要文献。

宋代由翰林医官院组织编著的《太平圣惠方》，共 100 卷，载方 16834 首。《圣济总录》是继《太平圣惠方》之后的又一巨著，全书 200 卷，载方近 20000 首，其内容十分丰富，是方剂文献的又一次总结。《太平惠民和剂局方》是宋代官府药局的成药配方范本，载方 788 首，所收录的方剂都是由各地献来，复经太医局验证，而后颁行全国，并作为修制成药的依据，它是我国历史上第一部中成药专著。

明、清时期，在继承前人的基础上，方剂又有了进一步的发展。其间明朝朱橚编纂的《普济方》，广搜博采，载方 61739 首，是明以前方书的总集，也是我国古代载方最多的方剂专著。其后汪昂的《医方集解》，王子接的《绛雪园古方选注》等，都从各个方面对有关方剂做了证治机理与组方原理的阐述，使方剂成为一门具有完整理论体系的学科。

新中国成立以来，随着中医药事业的振兴，众多医家研制了不少新的有效方剂，对民间单方、验方亦进行了大量的发掘和整理，编写出系统的方剂学教材和专著。由彭怀仁主编的《中医方剂大辞典》，系将历代中医药著作中的方剂进行整理、研究、编纂而成，收方约 10 万首。近几十年来，许多医药工作者利用现代科学技术与方法对一些方剂做了临床与实验研究，为方剂的研究开创了新的局面。

### 思考与练习

1. 解释中药及方剂的概念。
2. 简述中药与方剂的发展概况。

## 第二章 中药的性能

疾病的发生和发展，都意味着人体内邪正的消长、脏腑功能失常所反映出来的阴阳偏盛偏衰状态。中药之所以能针对病情，发挥祛邪、扶正或协调脏腑功能，纠正人体阴阳偏盛偏衰的病理现象，乃是因为各种药物具有若干作用特点，前人将其称为药物的偏性，就是说以药物的各种偏性纠正疾病所表现的阴阳盛衰。药物的这些作用特点或偏性，习惯上统称为中药的性能。可见中药的性能是中医理论对中药作用特点的高度概括。

中药性能的内容较多，主要有：性（四气）味（五味）、升降浮沉、归经、毒性等几个方面。认识了中药的性能，就掌握了各种药物的若干共性或个性，就可以应用中医理论来选择药物。

### 第一节 性 味

性味包括性和味两个方面。药物的功效与性味有着密切关系，性味是药物治病的主要理论根据，对指导临床实践有重要意义。

#### 一、四气

##### 1. 四气的含义

四气又称四性，即药物的寒、热、温、凉四种药性。四气中温、热和寒、凉属于两类不同的性质，而温与热、寒与凉则分别具有共同性，温次于热，凉次于寒，二者在共性中又有程度上的差异。此外，还有一些平性药，是指药物寒、热之性不甚显著，作用比较缓和的药物。而这些药物实质上仍有偏温或偏凉的不同，并未超出四气的范围。

##### 2. 四气的确定依据

四气是从药物作用于机体所发生的反应概括出来的，是与所治疾病的寒热性质相对而言的。一般说来，凡能够减轻或消除热证的药物，属于寒性或凉性，如黄连、黄芩对于发热口渴、烦躁等热证，有清热解毒作用，表明这两种药物具有寒凉之性；反之，能够减轻或消除寒证的药物，一般属于温性或热性，如羌活能治风寒表证、风寒痹证，干姜能治胃寒冷痛、肺寒咳嗽等寒证，表明这两种药物具有温热之性。

##### 3. 四气的临床意义

一般来讲，寒凉药多具有清热泻火、凉血解毒、滋阴降火、疏散风热等功效，常用于热证，如石膏、大青叶、石决明等。温热药多具有温中散寒、补火助阳、发散风寒等功效，常用于寒证，如附子、干姜、麻黄等。“寒者热之，热者寒之”是临床用药的基本规律，只有掌握了药物的四气，才能在这一原则的指导下，准确地使用药物，达到预期的治病目的。

## 二、五味

### 1. 五味的含义

五味，是指药物具有辛、甘、酸、苦、咸五种味。有些药物具有淡味或涩味，但通常将淡附于甘，将涩附于酸，故习惯上仍用五味来概括。

### 2. 五味的确定依据

中药的五味，最初是由口尝得来的，因此五味与药物的实际滋味有一定的关系，但五味的确定更主要的是以药物功效为主要依据。

### 3. 五味的临床意义

五味理论认为，不同的味有不同的作用，味相同的药物，其作用有若干相近或相同之处。根据前人的论述，目前一般认为：

辛味：能散、能行，即有发散、行气、活血、开窍、化湿等功效。适用于表证、气滞、血瘀、窍闭神昏、湿阻等证，如麻黄、木香、香附、红花、藿香等辛味药。

甘味：能补、能缓、能和，即有补益、和中、缓急等功效。适用于虚证、脾胃不和、拘急疼痛等证，如党参、熟地、饴糖、甘草等甘味药。

酸味：能收、能涩，即有收敛、固涩的功效。适用于虚汗、久泻、遗精、遗尿、出血等，如五味子、五倍子、赤石脂、乌梅等酸味药。

苦味：能泄、能燥，即有泄和燥的功效。泄主要包括清热泻火、泻下通便、降泄肺气。适用于里热证、热结便秘、肺气上逆喘咳等，如栀子、大黄、杏仁等。燥指燥湿，苦而温的药物，能燥寒湿，如苍术、草果等；苦而寒的药物，能清热燥湿，如黄连、黄芩等苦味药。

咸味：能软、能下，即有软坚散结、泻下的功效。适用于瘰疬、痞块、燥热便秘等，如昆布、芒硝等咸味药。

此外，淡味有渗湿、利尿的功效。常用于水肿、小便不利等证，如茯苓、猪苓等淡味药。

性和味是辨识药物功效的重要依据。由于每一种药物都具有性和味，因此，两者必须综合起来全面地加以理解。如同样是寒性药，由于味不同，其功效亦不同：黄连苦寒，能清热燥湿；芒硝咸寒，能软坚泻下。同样是甘味药，若性不同，其功效也不同：黄芪甘温，能益气升阳；玉竹甘寒，能养阴生津。性和味虽然要密切结合起来，但二者在决定药物功效上也有主次之分。对具体药物来说，有的药物侧重用性，如附子辛热，能温中回阳。有的药物侧重用味，如厚朴苦辛温，能燥湿、行气、降逆平喘。此外，还有许多一药兼有数味，往往其功效亦多。还必须注意的是，性味一般只能表示药物的大体功效和某些类似药物的共性，故即使性味相同的药物，其功效也各有所异，如苦寒的板蓝根能清热解毒，而苦寒的龙胆草却能清热燥湿、泻火等。总之，只有认识和掌握每一药物的全部性能，以及性味相同药物之间同中有异的特性，才能全面而准确地了解和使用药物。